

保育者養成における 「幼児理解」と「コミュニケーション」

— V-会議から示唆されるもの —

山田 りよ子¹⁾ 山田 玲子²⁾

1. はじめに

平成16年から平成20年にかけて、本学保育学科の学生とウィリアムズ大学の学生（アジア研究学部日本語学科）がビデオ会議（以後V-会議と呼ぶ）を行ってきた¹⁾。異文化間で行ったV-会議は参加した学生に文化の違いについての認識を促すとともに、コミュニケーションの取り方について自覚させる良い手段であることが確認された²⁾。また、一連のV-会議を通して、これが学生には保育者としてのコミュニケーション能力を育成する場になることも示唆されていた。V-会議後の振り返り（Eジャーナル³⁾の中で学生は母語である日本語で話しているにもかかわらず、話の流れを途切れさせずに会話を続けられないことを強く意識していた。本研究は、この問題に着目して“会話を潤滑に促す方法”を模索するものであり、その課程で保育者養成の中で実践する必要がある“幼児理解の方法”をさぐるものである。

2. 研究動機

学生がV-会議後の話し合いやEジャーナルに挙げていた問題を見ると、「予想以外の答えにとまどう」、「まとめられない」、「うまく言葉で表せない」などであったが、会話が続かないという認識ばかりではなく、何とかしなければならないという強い思いも読み取れた。また、人に伝える時に、うまく言葉で言い表せなかった理由として、「紙に書くなどして、文章を自分の中で整理したりするという過程の段階をやらなさすぎた」ということが記されていた。学生は“書くこと”と“文章を整理する過程”が必要であるという具体的な解決の方向性も自覚しているようであった。

保育現場において保育者に求められていることは、子どもの発達を助長することであり、幼児期にふ

表1 2006年度のジャーナルより抜粋

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">○自分の予想していた答えと違う答えが返ってきたときにはとまどってしまって、うまく切り返すことやまとめたりすることができなかった。○会話の中で聞きたいことがあっても自分の中で言葉の選択肢があまりにも少なすぎてきちんとした表現が出来ていなくて自分の表現力の足りなさを感じた。○黙ったままだと相手が理解してくれているのかわからないので、今更ながら反応がないというのは良くないと感じた。○頭の中ではわかっていることでも、人に伝えるとなったときに、うまく言葉で表せませんでした。その理由としてあげられることは、紙に書くなどして、文章を自分の中で整理したりするという過程の段階をやらなさすぎたということや、聞きたいことがあってもすぐに頭の中で整理することができないということだと思います。 |
|---|

¹⁾ “Prospects of Video Conferencing in a Cross-Cultural Educational Environment,” the 5th Annual Hawaii International Conference on Arts & Humanities in Honolulu, Hawaii, January 12-15, 2007.

²⁾ 藤女子大学研究紀要44号, 第II部, p.89-p.98. 平成19年.

³⁾ V-会議の終了後に、学生はいかにV-会議に参加したか自己観察記録を書き綴り、大学のサーバーに作ってある各自のフォルダーに保存して、これをEジャーナルと呼ぶことにした。

1) Riyoko YAMADA 藤女子大学人間生活学部保育学科

2) Reiko YAMADA ウィリアムズ大学アジア研究学部日本語学科

さわしい生活を送るための環境を整え適切な援助を行うことである。そして、保育者が適切な援助を行うために「幼児を理解する」ということが重要とされてきている。保育展開をするにあたり、幼児の生活する姿を記録に残すことは昔から行われてきたことである。最近では、2001年に河邊⁴がエスノグラフィの考え方を保育の世界にも応用し、“保育記録”を、子ども理解を深め、保育を省察するための有効な方法として位置づけている。また、よく見るだけでなくそれを記録することの理由として、1. 事実を忘れないために、2. 行動の意味を読み取るために、3. 保育を省察するために、4. 情報を共有するために、の4点を挙げている。保育現場では、子どもを理解し評価する手掛かりの方法として、エピソードを記録する方法や保育日誌など様々な方法がとられている。この記録から、幼児の気持ちを読み取ったり、発達の状況を読み取ったりしているのである。

河邊⁵は、保育者たちが幼稚園で記録を取り園全体の子どもを理解しようとする姿勢は、病院で看護師が看護記録をとる意味と共通すると言っている。さらに、保育記録をエスノグラフィの「厚い記述」⁶であると位置づけている。この観点から本研究では、会話の流れをつかみ参加するために行うこと、つまり、会話の内容を把握したり解釈することや意見を持つことや、会話を整理し意識することを促す記述を、エスノグラフィの「厚い記述」と捉えることにする。

3. 活動（パイロットスタディー）の実際

会話の流れを把握する活動として記述練習をさせることにした。その方法としてD. I. E.⁷の技法を応用することにした。これは1977年にベネット他⁸が異文化間コミュニケーションで対人コミュニケーションをより潤滑に行うために開発した、Description（記録⁹）、Interpretation（解釈）、and Evaluation（評価）メソッド¹⁰である。

記録：Description：情景、場面そのものを単に記録する。

解釈：Interpretation：Dの記録に自分の解釈を入れ、どのように理解しているかを書く。

評価：Evaluation：Dの記録を評価して、どのように判断したかを書く。

実際の記述活動は、同一対象者にD. I. E.の方法で題材を変えて3度行なった。

対象：V-会議を経験した学生3名（A・T・K）

方法：共通の話題について以下の3つの点から記述しお互いに知り合う機会を持った。

①内容についての記録（Description）

②内容の解釈（Interpretation）

③評価（Evaluation）

実践を行った後、Eジャーナルを書くことにした。

⁴ 河邊貴子『子ども理解とカウンセリングマインド』萌文書林, 2001, p 92, p 94.

⁵ 同上 p.93.

⁶ 同上 p.93. 厚い記述：観察された現象や出来事の単なる記述に終わるのではなく、その現象や出来事の背景にある意味や構造について適切な考察と解釈をすること。

⁷ DESCRIPTION, INTERPRETATION, AND EVALUATION Facilitators' Guidelines. Intercultural Communication Institute. [cited February 22, 2008] <http://www.intercultural.org/resources.php> ベネットはそれぞれの例として、I can see a woman of Asian origin covering her mouth. (D), She's yawning, so she must be bored. (I), That's all right, I don't blame her a bit. (E) を挙げている。

⁸ Janet M. Bennett, Milton J. Bennett and Kathryn Stillings. Intercultural Communication Workshop Facilitator's Manual, Portland State University, Portland, OR, 1977.

⁹ 本研究では「記述」という用語を多く使用している。重複を避けるために「記録 (D)」とする。

¹⁰ 広く教育やコミュニケーション分野のワークショップなどで異文化理解の能力育成に役立つ方法として実践応用されている。Ting-Toomey, Stella. *Communicating Across Cultures*. The Guilford Press, New York, NY, 1998. を参照。

表2 実施日と題材

	実施 (2006年)	題材 (資料参照)	難易度	提示
1	12月5日	歌詞 (チューリップ)・(悲しい酒)	分りやすい歌詞	口頭
2	12月12日	物語 (3つのことば)	くり返しのある短い話	口頭
3	12月19日	小説からの抜粋 (「命」柳美里作) 著書からの抜粋 (「森の旅人」Jグドール作)	かなり複雑な小説や随筆の一部	文章

題材の内容は誰でも知っている分かり易いものから、より複雑なものへと3段階になるように用意した。その提示は、1回目(5日実施)と2回目(12日実施)については研究者が読み聞かせをして行い、3回目(19日実施)については文章がかなり長いものだったために、抜粋した文章のプリントを渡して読ませた。

4. 結果と考察

5種類の題材を使って行った活動の結果、記録(D)が同じで解釈(I)と評価(E)に相違が見られたものと記録(D)と解釈(I)と評価(E)の全てにおいて違いが見られたものに大別できた。それぞれを〈結果1〉、および〈結果2〉として考察とともに書く。

〈結果1〉

はじめの2回については、記録(D)は同じであったが、解釈(I)と評価(E)については学生三者三様の解釈や感じ方がみられた。例えば、題材「悲しい酒」の解釈(I)と評価(E)からその違いを示すと以下のように多種多様である。また、その時のジャーナルにはそれぞれ解釈(I)と評価(E)に大きな相違があるということに驚いていることが書かれてあった。

表3 題材「悲しい酒」の結果

		学生A	学生T	学生K
悲しい酒	解釈(I)	悩んでやけ酒のんでる 失恋した 酒で悩みを消そうとする 一つ目より少し長く情景のある詩	何かの歌のようだ お酒を飲む事によって悲しみを紛らわせようとしている	この文を考えた人の想いが文にあらわれている 12の文字で区切られている 二つで一つの文になっている
	評価(E)	失恋して一人で酒を飲んでいる状況	このような心情の日もあるのだろうか やけ酒はほどほどにした方が良い	文字の数が統一されているので聞きやすいし、作者の想いがよくでている

表4 12月5日 ジャーナル抜粋

<p>A: 解釈はどう捉えるかによって、人により違いました。それぞれ解釈の仕方が違うので、自分とは違う視点からの解釈を見れました。面白い実験だと思いました。</p> <p>T: 人それぞれの意見や観点がありおもしろいと感じました。それぞれがみんな独自の観点から書き進めており、まるで国ごとに文化が違うような、人間の文明の縮図を見たような気分でした。</p> <p>K: 同じ文章についてでも、一人一人捉え方が全然違っていて驚きました。私は文章の内容自体には全くふれていなかったのので、AさんとTさんの解釈や評価を見て、こんな捉え方もあるのだなと感じました。文章の捉え方が3人それぞれ全く違いました。一人一人考え方が違うことにみんな驚いていました。</p>

〈考察〉

学生Kは、自分は内容について触れていないが、他の二人は内容に触れている点が違うことに気づい

ている。学生Tは「国ごとの文化の違い、文明の縮図」という表現で、各自の観点や意見の違いに素直な驚きを示している。解釈が同じではない（違う）ということは記述しなくても分かることではあるが、記述することで何がどう違うかの確認ができる。それと同時に記述により自分の考えを客観視でき、自分の解釈が他と違うということをも客観的に捉えることができる。さらに、違うという事実に驚いているのが自分だけではないことも記述練習によって深まる認識理解である。様々な考えに出会うことは、予期しない考えに出会った時にも驚かずに対処できる「構え」を養うことにつながると考えられる。

〈結果 2〉

内容の記録 (D) について、1 回目と 2 回目の活動では聞いたことをそのまま全部書き留めようとしていたが、3 回目の活動ではまとめて書こうとする様子が見られた。方法は 1・2 回目は聞き取らせ、3 回目はプリントを読ませた。提示の方法が同じ条件ではなかったが、内容が複雑で難しくなるに連れて、それぞれのまとめ方や視点にその違いがより顕著に見られた。今後、提示の仕方など検討の余地がある。口頭での題材提示とプリント配布の提示では、おのずと正確さに違いが出るであろうし、題材の内容によっては読み取る内容も変わってくるのが考えられるからである。題材「森の旅人」についての記録 (D)・解釈 (I)・評価 (E) の違いを以下に示す。

表 5 題材「森の旅人」の結果

		学生A	学生T	学生K
森 の 旅 人	記録 (D)	<ul style="list-style-type: none"> 動物実験について 実験される動物はどんな状況におかれているか、どんな心境か、人間に対する感情は？ チンパンジーのジョジョは 10 年間もオリの中に入れられ、たいくつな日々を暮らしているが、人間への憎悪の感情は見られない。 「動物実験を推進する会」の会員で、動物実験のおかげで助かった夫人は動物実験の他（動物以外）は考えていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間の生活役立てるために自由を奪われたジョジョと出会った。 昔パーティーで『心臓病の娘の命が犬の実験によって助かった夫人』と出会い、動物実験に反対する運動をしている著書に対して敵意をあらわにしていた。しかし著者が……(中略)……にしていきたい」と伝えると夫人は「そういう風に言われたのは初めて」と言い、もう敵意はないようだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ジョジョというチンパンジー 動物実験の博士 ジョジョの親はアフリカで射殺された 犬の動物実験によって娘が助かった夫人 動物実験を推進する会 博士の母はブタの弁のおかげで助かった 婦人は博士にば声をあびせる 船の上で誕生パーティー
	解釈 (I)	<ul style="list-style-type: none"> 実験される動物のことを考えていない人が多い。 実験内容や環境は良いものとは言えないが、それで助かった人もいる 	<ul style="list-style-type: none"> 著者は柔軟な発想のもち主ではないかと感じた。 自分も同じようなことがあるということを伝えたことによって夫人の気持ちが変わったように思った 	<ul style="list-style-type: none"> 動物実験について行っている人と反対している人のことが書かれている。 具体的に動物実験で助かったということもあげられている
	評価 (E)	<ul style="list-style-type: none"> 動物実験するならば、その動物のことを考えて行うべきである。動物も命ある生き物なのだから。 実験のおかげで助かった人は、その分一生懸命生きる。 動物以外を使用する方法はよい考えだと思う。命を犠牲にする実験はよくない。被験者が死ななような実験がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 物事というものはその捕らえ方によって見方が変わってくるものだな、夫人の意見をすぐ否定するのではなくこういった言い方を出来るのはすごいと思った。第 3 の方法を探すという考えは今までなかったのでそういった考えはいいなと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 動物の命をけずって人間の命を助けることはどうなのかと考えさせられる。

表 6 12 月 19 日のジャーナル

<p>T：前回よりも難しい内容のもので行いました。……内容は読んででも話がいまいち呑み込めずあまり解釈ができなかったのです……。日常会話もこの DIE で成り立っているのだということがよくわかった気がします</p> <p>K：聞きながら書く場合にはすごくたくさん書き取っていましたが、自分で読んでから書くとなると書く量がすごく減りました。それと、一回読んだだけでは内容が正確に頭に入っていないということを感じました。</p>
--

〈考察〉

学生Aと学生Kは全体を網羅して記録しようとしているのに対して、学生Tは著者の言動にフォーカスして著者の人となりや考え方を読み取ろうとしている。この記録の仕方の違いは、保育の記録を書く時に見られる違いに類似している。全体を記録しようとするのは、1日の保育活動の流れを記録する保育記録に似ている。また、学生Tの著者の言動部分にフォーカスした書き方は、保育におけるエピソード記録に似ている。保育場面においての多くの反省記録はエピソードにまとめたものが多い。様々なことが起こる一日の保育活動の中から、その日心に残った事柄をエピソードとしてまとめるのである。本研究の記述記録練習においても保育記録においても、題材が長く複雑である時には、記録（観察）者がある部分にフォーカスした記録の取り方をするのだろう。つまり題材が同じであっても、フォーカスする部分が記録（観察）者によって違うわけであり、人によって見るところが違うということである。

また、全体を網羅して記録を取ろうとしている学生Aと学生Kの解釈や評価においては、この題材がテーマとしている「動物実験への対応」について自分の考えが表されている。つまり学生Aははっきりと自分の考えを書いており、学生Kは考えを記述していないがテーマについて考えようとする前向きな姿勢が見られる。

5. まとめと今後の課題

本研究は、“会話を潤滑に促す方法”を試行する中で、異文化理解の基本となるコミュニケーションと保育者養成で実践する“幼児理解の方法”の共通点をさぐるものであった。

どちらも対象を理解するためには、漫然とした観察記録では理解にはつながらず、常に意識した観察（mindful observations）が必要となり、またそれが重要な作業となるのである。D. I. E.のメソッドを使って記述することは、観察者の主観を除いて記述する最初の記録（D）の段階で、観察している対象を客観視することになる。さらに、主観の入らない記録（D）と観察者の解釈（I）・判断（E）を交えた記述を書き分けられるので、その後の比較検討がより容易に行える。

結果1と結果2のいずれにおいても、主観が入る解釈や判断は人によって違いがあり、その点が学生に認識された。また、違いのある解釈・評価を客観視することができるという事実も確認された。記述することにより、それぞれがどのような解釈や評価をしたかが見えてくるので、お互いの観察の内容や解釈を比較検討することが可能になるのである。これは、今後様々な考えに出会った時に、戸惑うことなくそれを受け入れてお互いを知ろうとする体制、つまり会話を続けるための「構え」が作られて行くことにつながると考えられる。

結果2においては、登場人物の内面を読み取っている事が確認された。題材の設定次第で、幼稚園や保育園などの保育現場に出向かなくても、子どもの内面を読み取る訓練ができる可能性を示しているのではないだろうか。

保育の中で求められるのは子どもに対して援助する方向を探るための記述である。D. I. E.メソッドで記述することは、エスノグラフィーの「厚い記述」につながることであり、今後の保育者養成における利用の可能性を考えていきたい。

参考文献

- Janet Bennett, Milton Bennett and Kathryn Stillings. *Intercultural Communication Workshop Facilitator's Manual*, Portland State University, Portland, OR, 1977.
- 河邊貴子『子ども理解とカウンセリングマインド』萌文書林, 2001年.
- Ting-Toomey, Stella. *Communicating Across Cultures*. The Guilford Press, New York, NY, 1998.
- Yamada Reiko. "Raising Cultural Awareness: A Photo Exercise in Cross-Cultural Orientation Training." Meeting for the Rhode Island Foreign Student Advisors, Brown University, Providence, January 29, 1993.
- Yamada, Reiko and Yamada, Riyoko. "Prospects of Video Conferencing in a Cross-Cultural Educational Environment," the 5th Annual Hawaii International Conference on Arts & Humanities in Honolulu,

Hawaii, January 12-15, 2007.

Yamada, Riyoko and Yamada, Reiko. Fuji-Williams Video Conferencing in 2004-2007, *The Bulletin of Fuji Women's University* No.44, p.89-p.98, 2007.

〈資料〉

題材

チューリップ (童謡)

さいた さいた チューリップの花が
並んだ 並んだ 赤 白 黄色
どの花見ても きれいだな

悲しい酒 (石本美理由起作)

一人酒場で 飲む酒は 別れ涙の 味がする
飲んで棄てたい 面影が 飲めばグラスに すぐ浮かぶ
酒よところが あるならば 胸の悩みを 消してくれ
酔えば悲しく なる酒を 飲んで泣くのも 恋のため

三つのことば (世界幼年文学全集 11 宝文館 より)

むかし、ちゅうごくに ある というこどもがいました。あろは、ひとりむすこでしたから、おとうさんもおかあさんも あろをたいへんかわいがってそだてました。……中略……どろぼうは ひめいをあげました。そして どしんばたん、大きなおとを たてて ほうぼうへ ぶつかりながら、大あわてで そとへ とびだすと、くもをかすみと にげて いった しまいました。 たった 三つ おぼえた ことばが ずいぶん やくに たちましたね。

森の旅人 (ジェーン・グドール作・上野圭一訳 角川書店 2000年より)

オスのジョジョにはじめて会ったのは1998年のことだった。ジョジョは少なくとも10年間、1.5メートル四方の標準的な実験用飼育檻のなかに閉じこめられていた。そこはニューヨーク大学の施設である「類人猿実験医学外科研究所」、通称LEMSIPの飼育室だった。ジョジョのほかに、300頭ほどのチンパンジーがそこで自分の生活費を稼いでいた。製薬会社からだを貸して、薬剤やワクチンの実験に協力していたのだ。折りしも、チンパンジーがエイズについて知るためのかっこうのモデルだとかんがえられていた時代だった。……中略……なんの罪をおかしたわけでもないジョジョが、死ぬまで牢獄に閉じこめられている。わたしは自分がヒトであることを恥じた。気がつくや、ジョジョは鉄格子から遠慮がちに腕をのばして、涙にぬれたわたしの頬をそっと撫でていた。……中略……母のいのちを救ってくれたブタや、その手術を可能にするために犠牲になってくれたブタたちには、ほんとうに感謝しています。ですから、実験室でも農場でも、ブタたちの生活条件をよくするために、できることはなんでもしたいとおもってるんです。あなたもお嬢さんのいのちを救ってくれたイヌに感謝しているでしょう？ 将来はイヌもブタも使わずにおなじことができるようになるかもしれません。その代替案をみつけだすための運動に、あなたも参加しませんか？」

その婦人はきょとんとした顔でわたしをみつめていた。しばらくは声も出なかったようだった。

やがて、婦人は「そんなこといわれたの、はじめて」といった。肌を刺すような、激しい怒りの表情がきえていた。「会員にあなたのことばを伝えましょう」といって、その婦人は立ち去った。